

GLOBALG.A.P. 認証取得のポイント I

食の安全・安心に加え、環境負荷の軽減や労働安全の確保に配慮し、適正に農業生産を行う事が農業者に求められています。この適正な（良い）農業生産活動そのものを「GAP（Good Agricultural Practice、ギャップ）」と言います。

GAP（Good Agricultural Practice、ギャップ）の第三者認証制度として国際的に最も取りまとめ、事実上の国際標準として普及しているのが GLOBALG.A.P.（グローバルギャップ）認証です。

農産物の流通・販売を取り巻く情勢は、年々グローバル化しており、食品の安全性等について国際的な認証を取得すれば、国産・国外産を問わない状況が早晚訪れると予想されています。

今回は、GLOBALG.A.P.認証取得のポイントについて説明します。

1 家族・従業員・構成メンバー内の合意形成と教育訓練

GAP とは何か、認証取得の必要性や意義、具体的にどうすれば良いか、などを研修し、全ての関係者が GAP についての正しい知識を身につける必要があります。

加えて、農薬等資材の適正管理や使用、従業員の安全・衛生管理、収穫・調整・輸送時の注意点などの、勉強会や意見交換会を開催することも必要です。

経営主や一部の役員が、マニュアルに基づき書類を整備して審査を受け、合格証書を受け取ることが目的ではありません。

2 基準文書（管理点と適合基準）の内容習得

GLOBALG.A.P.認証を取得するためには、ドイツの非営利会社 GlobalGAP c/oFoodPLUS GmbH（以下「フードプラス」という）が定めた基準文書が求める事項を理解し、農場の現状把握やリスク評価、各種ルール（手順書）等の作成が必要になります。

一般的には、この基準文書の内容把握や審査会社との契約など様々な事務処理を行う必要があることから、外部専門家とコンサルタント契約を結び、指導してもらう事例が多く見られます。

平成 28 年度以降、東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準が示され、認証取得に取り組む経営体が急増したことから、外部専門家の手配が困難な状況になっています。

認証取得に向けての内部合意が完了した段階で、早めに外部専門家とコンサルタント契約を結び、計画的に認証取得手続きを進めましょう。

3 各生産工程のリスク評価の実施

認証取得のためには、農業資材の保管、施肥、農薬散布、収穫調整等の各生産工程に潜む危害とその原因(リスク)を把握・分析し(リスク評価)、対策を立てる必要があります。

例えば、農薬を出荷用の段ボールと一緒に保管すると、農薬汚染の危険性があります。この場合、危害は農薬汚染ですが、発生要因は出荷用資材との同一保管であることから、対策としては「農薬は、他の資材と別の場所に保管する」ことが必要になります。また、農薬の管理も徹底させる必要があることから、農薬受払簿の整備、施錠、農薬保管の掲示、関係者以外保管庫に立入りを禁止する掲示、などの対策をとる必要があります。

4 リスク評価に基づく改善策策定の進め方

3のリスク評価やそれに対応した改善策等を策定する場合、農場内を経営主だけがチェック表を持って巡回するのではなく、家族や従業員など関係者全員で農場内を見回り、何が問題なのか？どうしたらいいのか？を自分達で考え、実践することが重要です。

さらに、改善策を記載した手順書(指示書)は、誰が見ても分かるように作成することも重要です。現場で農作業の指示をしているリーダーの言葉をメモし、それを手順書やルールにすると、伝わりやすいことがあります。

5 栽培管理、研修会等の記録

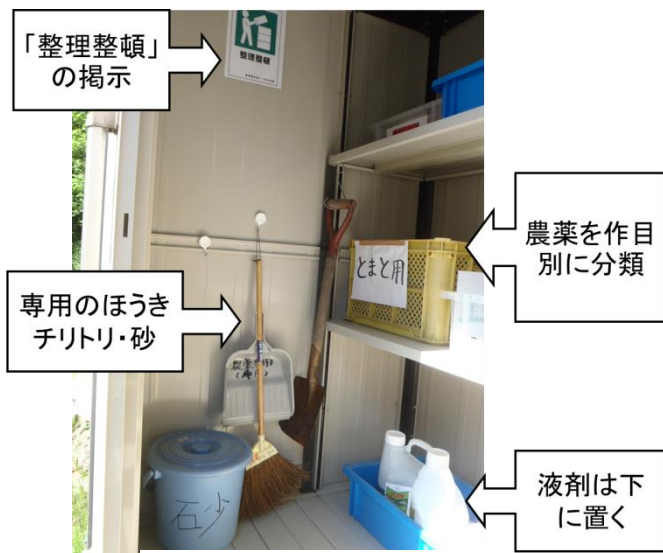
農作業日誌は、認証ほ場が特定できるように記録しなければなりません。また、出荷した農産物のクレームに対し、どの認証ほ場で栽培されたかを特定できるように、ロット番号等で記録・管理する必要があります。

さらに、従業員等の研修会や意見交換会、従業員の意見や要望、朝礼時の確認内容等も記録として残す必要があります。

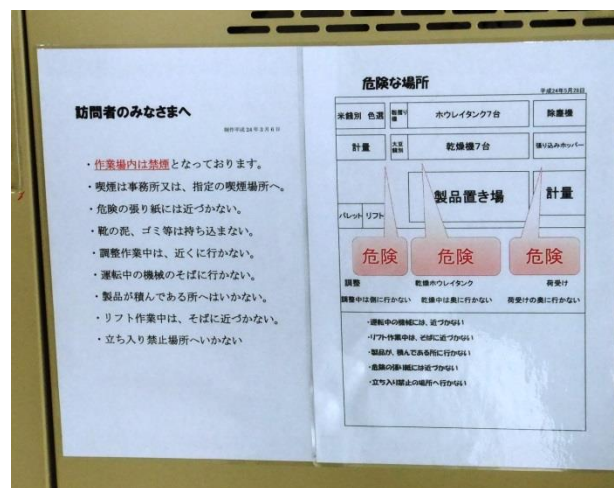
6 団体認証取得の推進

GLOBALG.A.P.認証取得経費は、審査・登録料や審査員の旅費、外部専門家のコンサル料や旅費を含めると、認証取得初年度で80万円前後かかります(この他に農舎や農場の修繕費、残留農薬検査費、水質検査費などがかかる)。

そのため、事務局体制を構築して「団体認証」に取り組むことにより、経費節減を図る事例も見られます。



【模範的な農薬保管庫】



【農舎内の掲示例】